

第2回 京都会館の建物価値継承に係る検討委員会 摘録

□ 日 時：平成23年11月19日（土） 午後3時5分から午後5時15分まで

□ 場 所：みやこめっせ内 日図デザイン博物館第1・2会議室

□ 出席委員（敬称略）

委員長

おかざき しげゆき 岡崎 甚幸 武庫川女子大学建築学科教授，京都大学名誉教授

副委員長

いしだ じゅんいちろう 石田 潤一郎 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授（日本建築学会推薦）

委員（五十音順）

いとう ひさゆき 伊藤 久幸 財団法人新国立劇場運営財団技術部長

えとう てるお 衛藤 昭夫 社団法人京都府建築士会会長

さわべ よしのぶ 澤邊 吉信 岡崎自治連合会会長

どうげ しゅんたろう 道家 駿太郎 社団法人日本建築家協会近畿支部京都会会長

なかがわ おさむ 中川 理 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授（日本建築学会推薦）

はしもと いさお 橋本 功 株式会社前川建築設計事務所所長（現京都会館を設計した事務所の代表者）

1 開 会

(1) 資料の確認

事務局

(2) 委員長挨拶

- 岡崎でございます。よろしく願いいたします。

議論に先立ち、前回欠席されていた伊藤委員が、本日は出席されているので、伊藤委員から自己紹介と、前回各委員の皆様から頂いた発言，すなわち、「基本設計を進めるに当たって、継承すべき建物価値をどのように考えるか」、また、「基本設計に当たって、配慮あるいは検討すべき点」などについて、舞台技術者の御専門のお立場から御意見をいただきたい。

伊藤委員

- 新国立劇場の技術部で部長をしている。
- 仕事内容としては、舞台装置、衣装、メイクや小道具などのプランを受けて、舞台に乗るかどうか、予算の中に収まるかどうか、技術的にできるかどうか検討し発注やランニングをやっている。よろしく願いたい。
- 前回の会議録を読ませていただいた。
私は京都会館に幾つか思いがあり、まだ新国立劇場に入る前、フリーの時代に全国の劇場で仕事をしてきた。
- 演劇やミュージカルで全国を回り、その中には京都会館の第一ホールと第二ホールも入って

おり、その時の思い出が強く残っている。

まず、我々裏方の立場からすると、劇場の評価ではないが、舞台のどこをまず見るかという点で、要素は3つある。

- 一つは間口、一つは奥行き、そしてもう一つは高さ。この三点である。舞台監督を当時やっていて、その時に間口に飾れるかどうか、要は見切れるかどうか、奥行きで飾れるかどうか、アクティンギアが取れるかどうか、それで、最後の高さのところ装置が果たして転換できるかどうか、ということを考える。
- 平面に置き換えた間口と奥行きに関しては、我々が何とかやりくりし、「今日はすいません、ここから前に出てください」ということを役者に伝えることができるが、さすがに高さの方では、装置が飛びきらないというケースがある。
- そういう場合、ドロップであれば(上部を)巻いて飛ぶようにする、要は絵を切ってしまう、パネルの方では、大胆に今回はここでは吊れないということでカットしてしまう、そのようなことは少なからずあった。
- この3つの要素が、できれば京都会館の第一ホールと第二ホール、特に第一ホールでクリアになれば、我々裏方から見た3つの要素がすべて揃うのではないかと思っている。
- それと、高さに関しては、最近の現代演出というのはダイナミックな演出が多い。例えば、昔は「幕が下りてきた」、「パネルが下りてきた」程度の薄いものが下りてきたということで対処できるが、最近の現代演出というのは塊が降りてくるケースも多い。
- そんなに新しい作品ではないが、「ミス・サイゴン」ではヘリコプターが上から降りてくるという演出があり、相当上空に照明設備を飛ばしておかないと、その下にヘリコプターが吊れないということもある。ダイナミックな演出をするためには、ある程度の高さが必要になっている。
- 貸館で、例えば、音響の天井反射板が入ることになった場合、幕をばらさないと天井反射板が飾れないということになると、貸館の準備時間が数十分で済むものが数時間掛かってしまうこともあり、貸館対応の場合はランニングコストに響いてくるということになる。高さというものは割とこうした点でも必要になるかと思う。
- 多目的ホールの「多目的」という言葉はどうしてもマイナスの方向にとらえられがちであるが、目的をもって劇場が設計されていれば、このホールの強いジャンルを明確につくり、近隣の施設とのすみ分けをきちんと出していけば、第一ホール、第二ホールで強いジャンルで明確にすみ分けをつくって、こういう目的に最適なものを持っているということに対応できるのではないかと思う。
- 一館だけで全部ができるというと、逆の言い方をしたとき、一館では何もできないという言い方にもなる。京都会館には幸いにも第一ホール、第二ホールと小ホールというカスタジオがある。

それと京都市にはコンサートホールもあるので、明確なすみ分けは、この地域では可能ではないかと思っている。

- 最後にもう一つ、今度は稽古場、リハーサル室であるが、これを持てるという計画案があるので、私は非常にありがたいことだと思う。要は、我々創造する現場の者からすると、良いものをつくる場所が欲しい。なるべく広く、なるべくゆったりとした空間をつくりたい。私は常

に劇場が創造活動のできる芸術の拠点としてあるためには、リハーサル室を含めたスペース、そこがやはり必要ではないかと思っているので、高さだけではなく、リハーサル室を含めた全体的な計画が十分行われるように、少しでも協力できればよいと思っている。

岡崎委員長

- ・ 伊藤委員から、ダイナミックな演出のための高さの必要性、それから、第一ホール、第二ホールがそれぞれ目的を持つことが必要ではないか、また、稽古場があって、それが芸術活動を活発にする、そういう3点の御意見をいただいた。

2 議題

(1) 前回の議論の確認

岡崎委員長

- ・ それでは、今回の議事を進めさせていただく。
今回の会議では、前回の議論を元に、継承すべき京都会館の建物価値の考え方と、今後の基本設計を進めていくに当たって、具体的に考えるべき点について議論を進めていきたいと考えている。
- ・ まず、前回の議論の内容について振り返ってみたいと思う。
お手元の資料1を御覧いただきたい。
- ・ この中の、主な意見として、まず、継承すべき京都会館の建物価値の考え方として、中川委員から「中庭空間の素晴らしさをいかに継承していくか」という御意見をいただいている。
それから、石田委員からは、「第一ホールの南側から北側に抜ける透明感がいい、これを残したい」という御意見をいただいている。
それから、橋本委員からは、「アプローチした際の「抜け」と「見上げ」がこの建物の大きな特徴である」という御意見をいただいている。
それから、私からは、「水平な庇による全体の構成、その下に影があることに日本的な特徴があり、京都会館の庇は残すか、同様のもの再生すべき」という意見を申し上げている。
それから、中川委員からはさらに、「二条通からピロティ、中庭、第一ホールの抜けにつながる空間構成に特徴がある」という御指摘をいただいている。
- ・ 次に、基本設計に当たっての配慮及び検討すべき点、特に第一ホールの外観デザインに関する考え方については、以下のとおり、
まず、橋本委員からは、「京都会館の前を歩いた時の目につく感覚などをいかしながら、如何にフライズのボリューム感を下げていくかが一つのデザインの要である」、との御意見をいただいている。
道家委員からは、「ぶどう棚までの高さ、27mといった前提条件の精査の必要性がある」という御意見をいただいている。
- ・ 最後に、その他の意見として、
澤邊委員から、「使われて価値のある建物とするためには、中途半端なことをするべきではない」という御意見をいただいている。

橋本委員からは、「保存と改修には様々な幅があり、京都会館における幅を見つけることが本委員会の役割ではないか」という御意見を、

それから衛藤委員からは、「総合力をもっていいものを残していくことを考えていくことが必要である」との御意見をいただいている。

- ・ このように、前回の委員会においては、各委員の皆様から京都会館に関する様々な思いや考えを述べていただいた。

本日の第2回目の会議では、具体的な外観デザインに関する議論が中心になってくる。

- ・ 具体的な議論を進めるに当たっては、まず、検討委員会に与えられた役割を再確認したいと思う。
- ・ 第一ホールを建て替えることにより、ホール機能の再生を図ることについて、委員の皆様には御異論はないものと思う。次に検討委員会の設置要綱上、本委員会は京都会館再整備基本計画に基づき実施する基本設計を進めるに当たって、現在の京都会館の建物価値を検証し、次の世代に継承していくことを前提に議論することを、議論の出発点とするということを各委員皆様の共通認識としたいと思うがいかがか。

衛藤委員

- ・ 第一ホールを建て替えることについては私も賛成なので、それについては結構である。
- ・ ただ、前回、道家委員から御意見のあったフライタワー、ぶどう棚までの高さ27mといった前提条件の精査が必要ではないかということについては、あらためて精査すべきと考える。
- ・ この間、自分なりに勉強したが、オペラハウス創設と考えた場合にはかなりの改善が必要であろう。
- ・ 例えば、舞台構成も一級のオペラの巡回を考えるとすれば、4面舞台が必要に思う。そうではなく、ある程度抑え多目的で、ということであれば、そこまでの必要はない。
- ・ そういう前提があやふやなまま、今、とにかく「世界の最高水準まで」という言葉だけでスタートしていることも含め検証する必要がある。つまり「何をつくるのか」ということの共通認識がない中で議論し、我々も意見を言っているような気がしてならない。
- ・ 基本計画案に確かに書かれているが、建築計画として、それがどういう意味を持っているのかということを確認にさせてから進めるべきと思っているが、いかがか。

岡崎委員長

- ・ 舞台内の高さ27mでどういうことができるのかということか。

衛藤委員

- ・ むしろ24mならばどうなるかということである。

その前に、何を狙っているのか。例えばパリのオペラ座バレエ団に来てもらうためのホールをつくるのかということか、または、そうではなく、もう少し地元密着型のオペラでいいのか、あるいは音楽に特化するのか、自分が不勉強なせいもあるが、よく分かっていない。
- ・ 今日は伊藤委員も来られているので、その辺りを聞きたいと思っている。

岡崎委員長

- ・ 前回も橋本委員から、もちろん完璧なものではないが、できる範囲のギリギリのところできかがかという議論、提案もあった。

衛藤委員

- ・ 前回の橋本委員の意見には非常に触発された。
橋本委員は要するに大規模な巡回オペラを呼ぼうということであれば、今の第一ホールは跡かたもなく建て替えなければならないと、言葉が違うかもしれないが、そういう風におっしゃったように思った。
- ・ 前川建築の価値継承ということを前提に、第一ホールを建て替えることには賛成しているが、ホールの内容について幅のある考え方で進めていくようにとの御意見があったと思う。
- ・ この幅ということについて、どこまで許容するのか、どのようなホールを目指すのかということの議論がなく議論を続けていくと、大切な点があいまいなまま進んでしまうのではないかと思う。

道家委員

- ・ 私も同様の意見である。しかも基本計画をみると、その辺の検証がほとんどない。
一行書いてあるのが、「27mは世界基準のオペラが巡回する日本のホールとほぼ同程度の舞台水準」とされている。
- ・ プロセニアムの高さが11mから12mまでという程度のことしか書かれていない。
これ以下であった場合はどういうことになるのか、何か制約を受けて、我々京都市民が求める權益というか、できないことがあるのか。そういうことについて明確にしておかないと、景観法に基づき色々なことをやっていたことを、地区計画で高さを緩和してまで、高さを確保するということが明確にならない。
- ・ むしろ、高さを下げられるのであれば、そして、それがそれほど重要なことにならないのであれば、そちらの方が景観上は望ましいということになるのではないか。

岡崎委員長

- ・ その辺について、この委員会でどういうふうに進めていくか。
今日は、伊藤委員も来られているが、今の御意見に対してはいかがか。

伊藤委員

- ・ 高さも間口も奥行きも、幾つでないといけないということは、まずないかと思う。
色々な目的や、演目でそれぞれ異なってくる。
- ・ 例えば、古典では間口が広く、高さが低く、奥行きもある程度、10間であれば10間の中に盆が入っていれば成立する。
- ・ 第一ホールの目指すものは歌舞伎だけを上演することではないと思う。ということは、建て替えるのであれば、現代に即して、現代の演目を考えた高さ、奥行き、間口が必要なのではないか。

- 先ほどのお話で、仮に27mではなくて、24mであればどうか、24mもとれなくて、20mならどうかということだが、その中でもやれる演目は当然ある。仮に20mの高さしかなくても、その中で収まる演目としてやればよいと思う。今、他ホールで上演されているオペラ、バレエ、ミュージカルや演劇についてもそうだが、やや大きめのものが来た場合、当然プロセニウムに対して2倍から2.5倍程度の飛びしろ（舞台内高さ）がないと見切れる。最近では文字（もんじ）なども大体9mよりも少し高いケースがあり、そうすると、中身が見えてしまっていて、どんどん上に飛ばしていかないといけない。
- そうなると、最初に申し上げたように、間口と奥行きはあっているが、残念ながらこの会館は、高さを原因として上演できないという評価を与えてしまい、第一ホールは公演先の候補から除外されてしまうことが多くなる。
- どうしても京都のホールでやってほしいとなると、何かをカットすることを考えることになる。要は、このパネルは、実際は13mのものであるが、飛ばないし、切るわけにもいかないので、このパネルは除外する（使わない）ということになり、100%のものを持ってくること、まず難しくなる。
- 簡単なことではないと思うが、もし、高さの問題がクリアになるのであれば、高くしておくことができれば、上演に当たり、まず公演先として選定される時に、土俵から落ちることはないと思う。
- あとは、オペラハウスを別に狙うこともないと思う。というのは、新国立劇場のオペラ劇場は実際にはオペラハウスとしての機能を持っていると思うが、相当に特化した劇場であり、大型のオペラ、バレエを上演するには適している。逆の言い方をすると、他の演目での運用は難しい。
- オーケストラピットを専用につくり、かつ、プロンプターボックスも作ってあるので、他の演目を持ってこようとしたときに非常に不具合が出る。
現代舞踊をやるにしても舞台として栄えないということになる。目的としていけば、オペラハウスを狙わずに、色々な事ができるように、高さも高く、奥行も間口もこういうスペースとなっているという、目的を持って進めていけばいいのではないかと。

岡崎委員長

- 今の計画では間口はまあ何とか確保されており、高さは高い方が良いに決まっているが、27m程度あれば、ある程度のものできる、全国共通のものが入って来ることができるということか。

伊藤委員

- スルーされることなく、京都会館も候補として対象に入ってくることになるかと考える。

道家委員

- 色々なデータを見ると、フライ27m以上というのはそんなに多くない。
東京では国際的な新国立劇場など、東京だから成り立つようなものが中心で、他の地方のものはそれより小さいものである。

- ・ 今、見切りの話があったが、プロセニウム高さが12mで舞台内高さが27mという、2倍プラス3mということである。これを例えばプロセニウム高さを11mとして、これの2倍にプラス3mということであれば、25mの舞台内高さとなる。そうすれば、現状の高さを超えずに基本的な形が作れる。

そこに今度は景観的な、造形的な配慮で勾配が付いたり、今の高度地区での緩和は特定勾配という条件は付いているが、3mまでは認められている。

- ・ それであれば31mで造形的な配慮を行うことも考えられるが、今は、舞台内高さを27mにしてその上に人が通れるようにすると、そこだけで30.5m程度にしないといけないからフラットな屋根にしかできない。
- ・ そうすると基本設計の段階で、デザインについてフライの圧迫感を減らす造形的処理などはほとんど設けられないような条件が先に決められており、その辺りをもう一度、本当にそこより下げたらどういう支障が具体的に起こるのかということを確認にして、それでもやむを得ない場合にはこうなるということを発表しない限り、今のままなんとなん、「国際水準の巡回が」、という言葉だけで済ませるのはちょっと問題ではないかと思う。

岡崎委員長

- ・ 今、言われている数値は27mではなく何mか。

道家委員

- ・ 25m。プロセニウムの高さが11m、東京文化会館のプロセニウムが11mだが、それと同程度であれば見切りが今の計画でいう2倍プラス3mとなっているので、25mとなる。
- ・ プロセニウムを1m下げること、フライを2m下げることができ、見切りは同じ考え方でいける。これまで景観政策協議会に参加してきた立場で、景観制度を守っていかうという努力をしており、その視点からすると、少しでも高さを下げることが考えられるのではないかと思う。

岡崎委員長

- ・ 伊藤委員、道家委員がおっしゃったプロセニウム11mと12mの違いという点について、どうお考えか。

伊藤委員

- ・ 最初に申し上げたように、プロセニウム高さが11m、10m、9mとなったとしても、その条件の中で創るということであればできる。

しかし、今の新しいものを持ってくるといことになると、どうしても高さが必要になり、そのクリアをどうするか。例えば、東京文化会館に関しては、現状の制約の中でギリギリの選択がされていると思う。

- ・ 新しくできた、ここ10年から15年程度の劇場でいえばみんな高いのではないか。そこにはある必要性があるのではないかと考える。

もし、どうしても高さが25mまでしか取れない、もしくは24mまでしか取れない制約が

あるのであれば別だが、新しく建て替えるに当たって、その2mが本当に不要だったのか、といわれるともったいないのではないかと思う。

- ・ その2mで上演の公演先選定の選択から落とされはしないかというとき、その2mの価値というのは非常に大切なものだと思う。

衛藤委員

- ・ 伊藤委員の御意見について、舞台関係の技術者として、高い方がよいというのはよく分かるし、何の制約もなければ高い方がよいのだと思う。
- ・ ヘリコプターが下りてくるような演劇もあり、必要性も分かるが、京都会館のある岡崎地区という元々の高さ制限がある中で考えているので、なるべく低くという言葉が当然に出てくるのだと思う。建物高さと地域の景観との折り合いをどう付けたらいいかを議論する場であってほしい。

岡崎委員長

- ・ この委員会場で高さを議論するかどうか。我々に課されているのは基本計画にのっかって、ということになっている。

事務局（本田都市計画局建築技術担当局長）

- ・ 道家委員から検証をしていくべきということであったが、基本計画の段階で一定の議論はされており、市民の皆様がよく利用されている施設であることはまず大前提であるが、総合舞台芸術が演目としてできるような形で基本計画がまとまっている。
- ・ そういう意味では、先ほど伊藤委員からもあったように、何かをカットするのではなく、あるがままのものを上演できるという目標が基本計画で決まっている。
いま、舞台内高さ25mという話もあったが、そういった点については検討した資料をお出しして、対応させていただきたい。

岡崎委員長

- ・ そうすると、次回にその資料を提出していただくということで進めていきたいが、衛藤委員と道家委員よろしいか。

衛藤委員

- ・ ここで、我々の役割は何かということをもう一度明確にしていきたいと思う。
基本設計案が間もなく提示されると思うが、その香山先生の家が出てきて、具体的に我々が意見を言う会議があと2回想定されている。その前の2回というのは、その具体案がない段階でその前提となる議論をする場と理解している。
- ・ その中で、道家委員や皆さんからも様々な意見が出されているが、それは、香山先生が基本設計を開始される前に、前提条件や留意事項を勘案して計画の方向性を見つけ出したいと考え議論をしているのだと思う。
- ・ 今日の意見を聞いて、その後もう一回委員会を開催されるのか、それであるならば、よく分

かるが。

岡崎委員長

- ・ 3回目の委員会の前にもう1回委員会を入れるということか。

衛藤委員

- ・ 3回目の委員会には基本設計の案が出てくるのではないのか。

岡崎委員長

- ・ 基本設計の案を出さないでほしいというわけではないのではないのか。案は案として出てきてもいいし、高さの問題もそのとき資料として出てくるというのではいかがか。

衛藤委員

- ・ 今日意見が出て、それについて考え、この場で議論できれば一番よいが、このままでは、時間的な制約でてくるのではないかということをお願いしたい。

岡崎委員長

- ・ 今日は予定の議事を進めさせて頂き、次回に27mの元となる基本計画の考え方、どうしてそうなったかということを出して頂き、それに対して伊藤委員から御専門の立場から御意見をいただくということによろしいか。

石田副委員長

- ・ 先ほど衛藤委員が最初におっしゃりかけたことかとも思うが、基本計画に基づき基本設計を進めるという話について、この「基づき」をどのように捉えるか、前回の最後に内山室長が再整備基本計画は変えられないとおっしゃられていたが、1センチも動かせないということであれば、そもそも我々がここにいる意味もないように思う。
- ・ そうすると、どこまでの議論をここでやれるのかをもう一度確認したほうがよいのではないかと思う。

道家委員

- ・ 例えば、基本計画に基づきとなっているが、これは今年の6月にできている。6月の時点ではこの計画は不適合である。地区計画の認可が下りて初めて高さが緩和されるのであって、基本計画は、もし都市計画審議会等で地区計画等が駄目になったことを想定すると、これはできないということになる。
- ・ したがって、これに「基づき」ということは、この概念や主旨に基づきというレベルの話であるから、それを他の条件を含めて精査した時、そこで例えば造形的な問題であるとか、そういったことを色々勘案し、調和のとれた所はどこなのかということを議論させていただかないと基本計画に基づいて基本設計をするということにはならないのではないのか。

岡崎委員長

- ・ その辺りについて、事務局どうか。

事務局（本田都市計画局建築技術担当局長）

- ・ まず、岡崎地域活性化ビジョンという地域の在り方の計画があり、当然その中では現行の規制と違うビジョンというものがあるので、これを実現するために都市計画関係の手続を進めているところである。
- ・ 道家委員から御指摘のあったように、色々な手続、都市計画審議会や議会などの承認を得ながら進めていくわけであるが、ビジョンの実現に向けて進めていくことになる。
- ・ 京都会館についても同様の位置付けがなされており、先ほども申し上げたように、市民の利用を前提として、総合舞台芸術を上演できる基本計画が再整備計画として固まっている。
- ・ その上で、今回の基本設計の検討委員会があるということであるので、先ほど石田副委員長からもあったように、1センチでも駄目という訳ではないが、演目をする事について、一つの計画、基本計画が定まっているので、それが実現できるのかどうか、それに際して今後、前川先生のデザインの踏襲、デザインの価値とはどういうことであるか、ということを含めていく作業としての委員会であると考えている。

岡崎委員長

- ・ 中川委員、いかがか。

中川委員

- ・ 石田委員がおっしゃった、この委員会は基本計画に基づきながら、その基本計画の中にまでどうしても踏み込まざるを得ない点はたくさんあるのではないかと思う。
- ・ その点での検証は、ある程度必要だとは思ふ。高さの問題については、まさにここでの議論を基にして基本設計が進んでいくのだろう。
- ・ おそらく、いくつかの「こうなった場合」というものは出していただけるのではないかと思っているが、そういう検証を今しないと、要するに基本計画をこれで「○ですか、×ですか」というわけではないと思う。

岡崎委員長

- ・ 橋本委員はいかがか。

橋本委員

- ・ 今お話しされていることは非常に興味深い話である。一つには、伊藤委員が言ったように、前回、私も申し上げたが、オペラを本格的にやろうとするとこの場所では難しいだろうということ。
- ・ その辺りを確認したいところだが、私の認識として、新聞や基本計画に書いてあるような、本格的なオペラをここに呼ぶというような文言そのものが、そもそも誤解を招いているという

認識がある。

- ・ 少なくともそれに本気で取り組むと、先ほど伊藤委員がおっしゃっていたように、新国立劇場ですら本格的なオペラ劇場ではない。もっとバックヤードが欲しいとか色々な話がある。
- ・ 大言壮語な言い方をせず、もっと普通の、今までのコンサートホールを市民が使える、ほどほどの舞台芸術に使えるスペースという言い方、基本計画に盛り込まれている内容は私から見るとそれぐらいである。
- ・ 今回、資料として頂いた、第一ホールと他施設の演劇ホールなどを見ると、今回、計画されている基本設計検討案の舞台は小さい、袖舞台が全然ない、バックヤードの後ろの舞台が全然ない、これは言い方を変えれば、地方の公共ホールの舞台と同じぐらいの規模ということである。
- ・ 本格的なオペラハウスということは、資料2の2ページにある兵庫県立芸術センターやびわ湖ホールにあるように舞台が3面舞台、広いところでは4面舞台があるが、ここで初めて「本格的オペラハウス」という言葉が出てくる。
- ・ 改めて見直してみると、今回基本計画で検討されている舞台の広さ、袖舞台の狭さ、後ろ舞台のなさ、舞台の高さからは、本格的なオペラハウスを造ろうという話ではなく、今までできなかった市民のための、あるいは学校とか、ちょっとした海外からのオペラと演劇を招いてできる本格的な演劇スタイルにしようという計画である。

私は文言ではなく、計画されているプランからそういう読み取り方をしている。

- ・ 問題は、先ほど伊藤委員がおっしゃっていたように、間口と天井の高さ、プロセニウム高さというのは、可変プロセニウムという考え方もできるので、幾通りの高さも可能であると私は思っている。
- ・ なぜ、そのような議論が出るかという、京都会館の高さをできるだけ抑えたい、景観の問題として抑えたいという観点があるから数値の問題にこだわって出てくるのだと思う。

すなわち、演劇専用ホールをつくる、つくらないではなく、そもそも今回の景観の中で、建物の価値を継承する一つとして、景観から見た建物の高さを抑えるという発想が歴然と存在しているからと思う。だから、高さの問題が出てくる。

- ・ そうであれば、逆に景観から考える高さの問題として、27mをトップとした場合、25mというスノコのレベルも出てくる。

景観から見たこれまでのたたずまいを最高の高さを27mなら、それを変えないように何とか考えて、その中でできる演劇専用ホールにしていこうじゃないかということが確認されればそういう風になっていく。その辺がポイントではないかと感じている。

岡崎委員長

- ・ 結論的には中川委員、石田委員と同じく配慮してはいいのではないかと、高さ等についてはこの委員会で検討してもいいのではないかと御意見か。

橋本委員

- ・ 一番大きな問題となっている景観を守れとなっていることは、高さの問題をどのように考えたかということで、舞台機能優先でフライズの高さを31mを最高として進めるというわけで

はないと思う。

岡崎委員長

- ・ 澤邊委員，専門的な意見が飛び交っているが，いかがか。

澤邊委員

- ・ 専門的すぎて理解しがたいところではあるが，私自身，オペラが本格的にできるというようなことは地元として一言も聞いていない。
今，あるところで最大限利用できるものがあって，しかもオペラもできればいいとは思っている。
- ・ ただ，本格的なオペラということになると，人に聞いた話だが，3面舞台，いわゆるバックヤードがあり，両サイドがあり後ろにもあるということが本格的なものであると聞いていたの
で，これはオペラができるはずがないと思っていた。
- ・ ところが，オペラ，オペラと言われているので，本当にできるのかなと思っている。
先日，京都会館でオペラを観る機会があり，やはり高さがなかったので，先ほどおっしゃった舞台装置が何面か抜けて簡略された中でのオペラだった。あれは演劇であるようにも思うが，それを観たとき，高さを限りなくとは言わないが，でき得る限り妥協点を見出していいものを作っていただきたい。
- ・ 基本的には理論が先なのか，先にここで議論したことが先なのか，あるいは，ある程度でき上がったものを検討して次に行くのがいいのかは，私には分からない。

岡崎委員長

- ・ ありがとうございます。皆さんの意見としては，高さの重要性，デザイン，舞台の機能も含めてある程度高さへの配慮もお願いできないかということが全体の意見と思う。

事務局（平竹文化市民局文化芸術担当局長）

- ・ 先ほど，橋本委員がおっしゃったように，基本計画をどのように読み解くかということはあるものの，例えば，今日提出している資料で，資料3にもあるように，第一ホールの舞台面と第二ホールの舞台面を同じ高さにし，使い方として例えば第二ホールの側に道具を引き込むということも可能なようになっている。
- ・ 少なくとも世界の一流が来るかどうかは分からないが，色々なことができるようなものにはしたい。
- ・ 京都会館は建設から51年も経過しており，かなり長い間で色々な議論があり，やはり，景観が大事，建物価値を残すことが大事という方もいれば，古いものは直して良いものを建ててほしいという方もいらっしゃるという幅の中で基本計画を策定したところである。
- ・ 基本的にはそういった手続を経てできあがった計画であるという前提で，御議論をいただくということがこの委員会の使命であって，確かに地区計画が確定しているわけではないが，それは然るべき都市計画審議会等で議論されるべき内容であると考えている。
基本計画は，その辺りの幅広い御意見を反映したものであるという前提で議論をお願いした

い。

岡崎委員長

- 例えば、ある程度の高さの検討と、並行して中身の使い方の問題と、それと同時に景観の問題を香山先生の方で色々御提案をいただいて、シミュレーションしていただくなど、例えば、高さ27mになったらこういった感じ、30mになったらこういった感じということも含めながら景観と使い勝手を一緒に考えながらこの委員会を進めていくというのは無理があるか。

事務局（平竹文化市民局文化芸術担当局長）

- 基本的には舞台内高さが27mであるとの前提で基本計画となっている。

道家委員

- 基本計画を読むと、必ずしも27mが前提とは書かれていない。
24mから27mぐらいで、世界レベルの、世界水準のオペラのセットを27mであればそのまま活用できると書かれているだけである。
- 今までの話で世界水準のオペラはほとんど来ない。とすると、世界水準の演劇等ということになるのではないかと思う。又は日本のトップレベルの演劇が来るとことになる。基本計画でオペラとあるが、世界水準のオペラが来るとことは想定できないと思う。
- そうすると、このレベルでフライの高さを下げたことにより、きちっとしたものがないのかどうかの議論を明確にしていただければ、基本計画の中で24mから27mの幅の中で、景観の要件やその他のバランスをどうするかなど、京都会館の価値全体にかかわる議論をしていくべきではないかと思う。
27mを一切動かすことができないことが基本計画の内容ではないと思う。

事務局（平竹文化市民局文化芸術担当局長）

- 景観の価値の継承という前提について、27mではできなくて、25mではできるとということが仮にあるのかということにもなると思うが、京都市としては27mという前提で基本計画をまとめ、京都会館の価値を、第一ホールを建て替えるにしても、継承したものにしたということで、何を価値の継承としていくかという議論をしていただければと思う。
原則はやはり舞台内高さ27mを前提として進めていきたい。

岡崎委員長

- 皆さんの意見として、27mの高さについての御意見があるが、現在の基本計画で考えなければ、この委員会は成立しないということにもなってしまふ。
- 香山先生から色々な御提案をいただいているので、27mという高さと機能の問題を両方持っている。これから先の議題もあるので、例えば、次回にもう少し高さを使い勝手の問題を含めて議論することとして、今日は、香山先生から27mで御提案いただいている案も披露していただき、その結果を第3回目に持っていくということではいかがか。

伊藤委員

- ・ 先ほどから幾つか話が出ているが、違う視点で、キャパシティについてであるが、2,000席という第一ホールを考えれば、狙いどころは演劇ではない。
- ・ やはり、ここはオペラができるところ、バレエができるところ、大型のミュージカルができるところ、それと大型の演劇ができるところとなるだろう。

通常の演劇であれば、600席から800席程度を狙うべきだろう。2,000席となると、どうしても電気音響を入れないといけなので、ワイヤレス、つまり電氣的な音声で演劇を見せないといけない。

- ・ 生声でやるには、2,000席は明らかに大き過ぎるということになる。ここでのターゲットは先ほど言ったオペラ、バレエ、大型ミュージカルや大型演劇を狙うところである。

理想を言えば3面舞台や4面舞台が理想であるが、敷地の問題でどうしてもなければ一杯飾りでやれるものを我々は狙っていく。ただし、舞台内高さがないと吊り物が飛ばないというようなことをクリアしてもらえば、やれるものはあるのではないか。

- ・ 当然、出し物によっては、一杯飾りで成立する4幕物のオペラもあるし、それも計画していけば今の袖スペースでも十分活用できるのではないか。

理想は3面、4面、6面欲しいが、敷地の状況では無理なものも分かるし、キャパの問題からすれば、そういった形で高さの確保を狙っていくべきではないかと思う。

事務局（平家都市計画局公共建築部長）

- ・ 道家委員から24mという意見もあったが、基本計画の中で、舞台内高さについて検討しており、20m、24m、27m、それぞれどの程度のことができるかを検討した経過がある。
- ・ そういう検討を経て基本計画では27m程度ということで決めさせて頂いている。

舞台内高さの24m、27mについては、先ほどから議論になっているプロセニアムの高さにも影響してくるし、合唱をやっている方からはプロセニアムは12mの高さが欲しいという意見がある。

京都市としては基本計画に基づいて進めていくということで、舞台内高さ27m程度として決めている経過がある。

岡崎委員長

- ・ 高さの議論を3回目にするとして、今日は次の議題に進んでいきたい。道家委員、衛藤委員よろしいか。

道家委員

- ・ 基本計画を細かく読んでいくと、今、事務局から説明されたようには書いていない。

衛藤委員

- ・ このような議論を続ける現状では、香山先生が設計を進めることがしづらいのではと思う。この1回、2回の会議で結論付けるべきと思い、まずその点が結論づいていないのではないかと発言したものである。真意は、目指すべきホールの検討が明確ではないと思ったので発言

したものである。

- ・ 第一ホールを建て替えるという点については、市民から建て替えない方がいいという意見もあるが、これについては建て替えなければ、おそらく音響環境の根本的な改善はされないだろうし、建て替えることが妥当であると私は考えている。
- ・ その中で、価値継承について皆さんから出されている「抜け」の問題や「見通し」の問題、「中庭の広がり」といったことはきっちりと残していくべきと考えており、今後意見を出していきたい。

岡崎委員長

- ・ 高さの問題について、この委員会の外で決まったことについて、つまづいて動かないようでは議論を進めることができないので、進めていく。

基本計画では十分に練られているだろうが、次回にフライタワーの高さと機能的な点について、お話をいただき、同時に景観の問題と裏腹の問題であるので、そのように進めさせていただきたい。

(2) 設計イメージ案等資料の説明

岡崎委員長

- ・ それでは、今回は、京都市から、より議論が深まるような想定案が資料として提出されているので、事務局から資料2以降の内容について説明をお願いします。

事務局（平家都市計画局公共建築部長）

- ・ 今回は、「京都会館の第一ホールをはじめとした外観デザインについて」をテーマに、より議論を深めていただくということで、前回の会議で御指示のあった「現時点におけるプランのイメージ資料」をお手許にお配りしている。
- ・ 現在、検討委員会での御議論も踏まえて、香山建築研究所と連携し、基本設計に取り組んでいるところである。
今回、お示した資料は、ボリューム検討の段階における現時点での検討資料であり、今後、具体的に平面プラン等の詳細を詰めていくに当たって、変動要素があるものと御理解いただきたい。
- ・ 具体的には、既存の会議棟と第二ホール部分の耐震補強にどれだけの補強が必要となるのか詳細な検討がなお必要であり、また、現在の第二ホールの内装材には不燃化処理されていない木材が使用されていることから、内装等を全面的にやり直す必要があることなど、今後、具体的な工費を見積もる中でも、プランの調整が必要となると考えている。
- ・ 現段階では、このように流動的な部分があることを前提に今回の資料を説明させていただくが、そのように受け止めていただきたい。

事務局（福島都市計画局公共建築部企画設計課建築担当課長）

- ・ それでは、配布した資料2から5の説明をさせていただく。
スクリーンでも資料を映像としているので、併せて観ていただければと思う。

(資料2の説明)

- ・ 最初に、京都会館第一ホールの舞台規模を確認するために、資料2「京都会館と他のホール施設との比較表」を用意している。

この資料は、基本設計の検討案と現在の京都会館、他の類似施設の比較をしている。

- ・ 1枚目の資料の右側が「東京文化会館」で、この会館は、京都会館と同じ前川先生の作品である。

2枚目の左側が「びわ湖ホール」、中程は「兵庫県立芸術文化センター」、右側は「神戸国際会館」である。

これらの類似施設の図面比較とホールの概要、過去5年の主な公演を示している。

- ・ 1枚目の資料で舞台規模について、説明させていただく。

中程が現在の京都会館で、右側の「東京文化会館」と比較してみると、京都会館は舞台の奥行きがなく、また、フライズも設けられていない。

このようなことから、このままでは十分な舞台機能が発揮できず、京都会館を素通りする演目がジャンルを問わず増えている状況にある。

- ・ 京都会館が将来も市民の皆様に愛され、利用していただくためには、再整備基本計画でお示ししているとおり、機能を向上させることが必要だということが分かっていたのではないかと思います。

- ・ 資料の左側が、前回の検討委員会での御意見を踏まえ、香山建築研究所と連携して作成した基本設計の検討案で、後ほど詳細に説明させていただくが、舞台内高さについては、現代の利用ニーズに合わせたホールを目指しており、他の類似施設からも分かるのとおり、舞台装置を吊り下げるスノコ部分までの高さは、2.7m必要と考えている。

なお、舞台の奥行き寸法については、再整備基本計画の中で約2.0m確保を掲げているが、現在、平面プラン精査中のため、検討中としている。

- ・ また、この資料で今回の検討案と「東京文化会館」を比べると、「東京文化会館」よりホールがコンパクトなものになっていることが、分かっていたのではないかと思います。

(資料3の説明)

- ・ 次に、資料3の「配置図・平面図案」を御覧いただきたい。

左側が、配置図兼1階平面図である。

再整備基本計画にあるとおり、第一ホールは舞台規模を現在のものより拡大し、建て替えるものである。

- ・ 第二ホールや会議棟は既存の躯体を生かしたものにしている。

二条通に面した現在、会議棟の1階事務所部分は、にぎわい施設として中庭と一体的に整備する計画としている。

前回の委員会で、京都会館の建物価値の優れているところとして、取りあげていただいた意見を踏まえ、二条通からピロティを経て、中庭に至る動線、さらに、第一ホールのエントランスから冷泉通を見通せる「抜け」をしっかりと継承することとしている。

- ・ また、ピロティ、中庭の価値を継承し、魅力的な空間として整備することとしている。

さらに、冷泉通に面した第一ホールの壁面位置は、継承することになっている。

- ・ 右側の図面は、2階平面図であり、市民の皆様に親しまれる施設とするための機能向上として、第一ホール、第二ホール及び会議棟をつなぐ共通ロビーを設け、内部空間の流れを魅力的なものとする仕掛けをしている。

また、委員会の御意見でもあるように、現況の壁面、手摺、欄干の意匠は、基本的に保存し、第一ホールの建て替え部分においても、それを継承するものとしている。

(資料4－立面図の説明)

- ・ 次に、資料4の「立面図・断面図案」を御覧いただきたい。
左側の上段にある2つの図面が、西側から見た現状と検討案を比較した立面図である。
上が現在のもので、下が検討案であり、建て替える部分の第1ホールの壁面は、第2ホールの壁面位置に合わせることにしている。
- ・ 同時に、前回、岡崎委員長から御意見のあった大庇の陰影を守ることも考えている。
右側の上段にある2つの図面は、北側から見た現状と検討案を比較した立面図である。
同じく、上が現況で、下が検討案で、この図面の左側に破線で示しているのが、市立美術館の別館である。
- ・ 疏水に面した西側壁面は、先ほども申し上げたように、第二ホールの壁面に合わせることにしており、また、大庇とその陰影についても継承することになっている。

(資料4－断面図の説明)

- ・ 資料4の下段の図面は、第1ホールの断面図である。
資料2において説明させていただいたように、舞台のスノコ部分までの有効高さを27mとしている。
この場合、建物の最高高さは約30.5mになり、現在の京都会館は27.5mであるため、3mほど高くなる。
- ・ なお、フライズの見せ方については、例えば、図面では壁面がわずかに傾斜しているが、この部分のデザインは、特に、疏水側からの景観や建物のバランスを考慮しつつ、材料や形状について、現在、継続して検討しているところであるが、委員の皆様を伺いながら、さらに検討して参りたい。
- ・ このような工夫をしつつ、フライズを設けることで、京都会館の機能は一段と魅力的なものになり、今後も市民に愛される会館になると考えている。

(資料5の説明)

- ・ 最後に資料5を御覧いただきたい。前方に模型を用意しており、委員の皆様には模型を御覧いただきながら説明をさせていただく。スクリーンの映像は、検討案の模型を撮影したもので、現在の京都会館とのボリュームの比較を行ったものである。
上段が現状で、下段が検討案を示している。
- ・ 1枚目の左側は、敷地南東の方向から中庭を望む全体配置が分かる鳥瞰の模型写真である。右側は、敷地南側からのピロティを通した抜けを見た模型写真である。

2枚目は、左側が、敷地北側からの見え方、右側が敷地北西側からの見え方を示した模型写真である。

【資料2～資料5の説明終了】

- ・ 以上の説明について、香山先生から、何か補足するような点があれば、お願いしたい。

香山壽夫建築研究所所長

- ・ 今の説明に特に付け加える内容はないが、何を行ったかという要点を一言言わせていただくと、あくまでこれは更地に理想的な劇場を設計するというつもりで行っているわけではない。既存の建物の制約がある、とりわけその輪郭をしっかりと守る、その中で最高の、今の時代に使えるものにするとしたら、どういう考えがあるか、ということ考えたわけであり、これは先ほど伊藤委員、橋本委員がおっしゃったことのとおりである。
- ・ また、様々な回答があるかもしれないが、今の輪郭を守ること及び高さの制限は3.1mを前提として考えている。
- ・ そうすると舞台の中の高さは2.7mで、プロセニウム高さ1.2mまでのものが可能であるということで、かなり今日的な、魅力的なものも招けるだろうという判断をしている。
- ・ その中で、さらにどう特化していくか、先ほど伊藤委員からもあったように、まだまだ色々なことがあると思うが、あくまで輪郭及び高さの中で、一番バランスのとれた回答の一つになるのではないかと御理解をいただければと思う。

岡崎委員長

- ・ ありがとうございます。
それでは、皆さんから本日の資料に対する御意見をいただきたい。
- ・ まず私の方から、香山先生に質問させていただきたい。
舞台内の高くなっているところは、今、傾斜を取った壁面としてお考えになられているが、この点について今の時点で何か、「こういった感じの意匠がある」といった御提案はありますか。

香山壽夫建築研究所所長

- ・ いくつもの考えが渦巻いている。
この設計は、例えば構造的に成り立つようにするために、ということを考えてだけで、ものすごく複雑な問題が底に控えているし、法律的にも成り立つように、現在非常に複雑なものに対応するためには、まだまだ今この時間をいただいてでもスタディをさせていただきたいほどであり、大変なものである。
- ・ そういうことを踏まえたうえで、最終的な形は出てくるが、まだまだそれは先の話といえる。
今、イメージは夜も昼も頭の中に渦巻いているが、「これ」と申し上げる段階には至っていない。

衛藤委員

- ・ 設計をする者の興味として伺うが、「1/2規定」と我々は呼んでいるが、既存不適格の建

物に増築部分を接続する場合には、既存不適格部分の全体の1/2までしか造れないという規定について、この解決方法としてはやはり免震構造で解決するのか。

事務局（福島都市計画局公共建築部企画設計課建築担当課長）

- ・ 増築部分の面積は既存部分面積の1/2を超えるので、既存部分も現行法の規定に適合させる必要がある。

今回、構造部分の検討が難しく、基本計画の段階では免震構造を採用することを検討していたが、時刻歴応答解析を用いて増築部分を構造解析すると通常のEXP. J（エキスパンション・ジョイント）で接続することができるため、現在、その方向で検討しているところである。

新築部分は時刻歴応答解析を行い、既存部分は耐震改修促進法に基づき耐震改修することになる。

岡崎委員長

- ・ 澤邊委員，いかがか。

澤邊委員

- ・ 今の説明で、模型写真が提示されて、全体の想像が少しできるようになってきた。
- ・ 問題点は一番高い部分の考え方がであるが、これから50年、100年先に「もう少し高く造っていたら良かったのに」と思われたとき、舞台内高さが1～2m程度低かったことが原因になると悲しくなるのではないかと思う。
- ・ そういった点についても配慮し、器が大きければできるだけことはできるが、全体的なバランスを観ていただき、景観のことを皆さんに考えていただくことはありがたい話だが、「もう少し高かったら」とか「もう少し広かったら」いいなとも思う。
- ・ いいものができるように、決してオペラがいいというわけではないが、これから先、どのような良い芸術ができるのか又はできないのかということにもつながると思うので、いいものを造ってもらいたい。

道家委員

- ・ 高さの話は先ほどしているもので、もう少し具体的な点について話をしたい。
第一ホールの壁面を継承するとか、外観をなるべく保存するという事は基本計画や今回の提案でもなされている。
- ・ これは第一ホール全部を一旦壊したうえで造るのか、それともヨーロッパで行われているような、京都でも既にかなり行われているが、古い部分の外壁の一部や、その他の部分を安全自立させて保存し、その中だけ新しくするという考えがあるが、できれば私は後者の方の、なるべくできる部分については現況を保存して、それをそのままのテイストで活かしていただく方向で進めていただければと思う。

岡崎委員長

- ・ その点について、何かある程度の計画がおありか。

香山壽夫建築研究所所長

- できるだけ、今ある物で形が残れば良いと思うのは、道家委員の意見と同じである。
ただ、現在調査中ではあるが、コンクリートの腐食も、とりわけ庇の辺りは大変なことになっており、逆にこれについては残すということも断言できない。
- やはり、まったく同じ形で造り直さないといけないかもしれない。
そういった点について、例えば、最近補修された名古屋大学の講堂などは、コンクリートのかぶり厚さ3センチの部分ですべてはつり、コンクリートを打ち直しており、それを残したと言えるのかどうか、これは定義の問題かもしれない。
- 申し上げたいのは、色々な残し方があり、合理的に、構造的にも今後100年先にも残るように、一番いい方法を探し、総合的なところで色々なことをまだまだ考えていかなければいけない。
輪郭をしっかりと守る、できるだけ今のものを使いながら残す、この点はその様に考えている。

岡崎委員長

- ありがとうございます。他に御意見はあるか。

道家委員

- 私が現計画で気になっているところは、中庭とホール部分に1mほどの段差が階段状についており、それがロビーのところにも、現況のロビーでも別館との間に室内で1m程度の段差が腰壁のようについていて、窓のところの空間にかなりの圧迫感がある。
- 今回の計画でも、ほぼ同じ断面になっているが、別館との間の距離がとれなくてぎりぎりなのか、それとも少し広がっているのであれば、もう少し別館側にロビーを広げると空間もできるのではないかと思うところもあるので、この中庭とピロティのレベルの段差のうまいつながり、空間のつながりを検討できないか。

香山壽夫建築研究所所長

- その部分も、今以上に良くしたいと思っているポイントで、道家委員のおっしゃるとおりである。
- どのようにしていくかについて、少なくとも、今ある設備の建物と排気塔、排気塔は元々あったもので、正直、決してあれがいいものと建築家として思わないので、できればそういったところもより良い方向に直していきたいと思っている。
- ただ、美術館別館部分との境界部分をどこまでどのようにできるのか、今後、京都市とも可能性を検討したいと思っているところである。何とかできれば、あの部分は圧倒的に良くなると思う。

衛藤委員

- 今日の資料の図面では広げられているということでよいか。

香山壽夫建築研究所所長

- ・ 今は駐車場部分に木を勝手に描いてはいるが、現状の外形ラインのままである。

岡崎委員長

- ・ 前回、石田委員の御指摘で「抜け」という話があったが、それは断面図のこの部分（ロビーの下部分、共通ロビー部分）で配慮されていると考えられるか。

石田副委員長

- ・ 現状の「抜け」は、階段下部分や客席の下部分を含めて抜けているわけだが、基本計画とは違って、この部分がバックヤードで占領されず、ロビーとして取っていただいているのは前回の私の意見を配慮いただいたものと考えている。

中川委員

- ・ その「抜け」も含めて色々大変御苦労されたと思うのだが、やはり気になるのは中庭の雰囲気がかきちんと保存できるのかということである。共通ロビーという考え方を取り入れておられるが、そのために今の中庭にせり出しているテラスの部分を全部ガラスで覆うものとなっている。
- ・ このガラスで覆うということが、どれだけ中庭の建物価値を壊さずに可能かどうかということが、おそらくこの案の一番の肝になってくると思う。
- ・ 第一ホールと第二ホールを結ぶ共通ロビーを造る必要性というアイデアは、どういったところからきているのか。
つまり、分からないことはないと思う点は、やはり元々の第一ホールのホワイエ部分の面積が足りない、その部分をどのように解決するかというのはおそらくすごく難しい問題であり、現状はその部分の中庭にある程度背負わせているのではないかと思える。
- ・ それを共通ロビーというアイデアで結ぶことによって何か解決されようとしていると思うのだが、この共通ロビーのアイデアをもう少し説明していただけるとありがたい。

香山壽夫建築研究所所長

- ・ 共通ロビーという考え方はこの劇場だけの特別の考え方ではなく、複数のホールをもつ劇場においては、むしろ現在は一般的なものと言える。
- ・ その上で今後、京都会館をより積極的に使うときのいくつかの考えのうち、第一ホールをより使えるようにするという考えもあるが、もう一つはホールと会議場の連携をより強くすること、京都で今後期待されるフェスティバルや総合的な会議のとき、これはいくつかの部屋を同時に使うことになり、学会で使う時などにはたくさんのポスターを立て、それを皆が行き来しながらいくつもの発表をするということになるので、それを雨が掛かる中庭でやるようなことはまったく考えられない。
- ・ 現在の雰囲気は確かに一つの雰囲気としてあるが、もしこれを今後、総合的に学会や様々なフェスティバルやイベント等に使う、M I C E機能と呼ばれていたかと思うが、このためには

やはり内部化する必要があると思ったことが我々の提案である。

- ・ 幸い、元々の設計に、第一ホールの前の中庭に向かった非常に広いテラスと、中2階の空間がある。ちょっと天井が低かったりもするが、これは与えられた良い条件なので、これをより使えるようにするというので、できるだけ現状の形を保ちつつ、むしろその雰囲気を保ちながら良い形で、より広く使えるようにできればいいという形の提案である。
- ・ どのようにやっていくか、中川委員のおっしゃる様に頭の痛いことがいっぱいあるが、やるのであれば最高の形で答を出すしかないと思っている。御心配をお掛けしているというか、良くしないと致命的なことになると自覚をしている。

中川委員

- ・ 実は京都会館から拡大する話であるが、MICE機能というのは岡崎活性化ビジョンの中でも出てきており、京都会館をホール機能だけでなく国際会議など、例えば学会などでも使えるものにしようという機能拡充も含んでいると思う。
- ・ そのことは今回の改修、基本設計の中で京都市が考えた基本計画の中に入っているとの理解でよいのだろうか。

香山壽夫建築研究所所長

- ・ プロポーザルの条件に示された基本条件の大きなポイントとして受け取っている。

事務局（平竹文化市民局文化芸術担当局長）

- ・ 例えば本日のような雨天のとき、中庭に傘をさして並んでおられるという状況が多く見られる。
- ・ これは、使って頂く方の利便性が考えられていると考えている。また南北に抜けているということは、おそらくホールが使われていないときも人の流れができるということになる。
これはホールとしての賑やかさが生まれることにつながると思われ、何か上演されている時だけでなく、常に人が集えるようなものが必要と考えており、非常に良い案ではないかと思っている。

道家委員

- ・ 第二ホールのホワイエがかなり小さくなっているが、昨年、建築家協会が第二ホールで全国大会を行った際には、多目的ホール（現会議場）、ロビー、第二ホールを連携しながら使った経験がある。その際、この第二ホール一階のホワイエが狭く、受付の机を置くのにも非常に不便であった。
- ・ 今回の計画では2階のところに共通ロビーがあるが、会議棟のロビーとの移動が現実的ではなかった。
- ・ 特に、海外からの賓客に待ってもらうスペースがそういったところにあり、そこから下の舞台まで案内するといった時、会議場として使うには極めて動線上不都合なことがあった。
この辺りでこのホワイエを縮めて（動線の確保という）そういう処理をした方がよいのか、例えば迎賓的な施設は第一ホールとの間辺りに良い部屋ができるといった条件が入らないと、

このままホワイエを狭くするのはマイナスになるのではないかと感じた。

- ・ 疏水が西側にあり、東京文化会館の場合では前川先生はわざわざ水を回すということをされているが、今回の計画では疏水は全部裏側にしている。今回の計画で疏水をうまく取り込むアイデアというのはいらないのだろうか。

岡崎委員長

- ・ 例えの話として、道家委員には疏水を具体的に取り込む考えはおありか？

道家委員

- ・ 例えば、この搬入口と書いてある通路が消防用通路などで必要なのか、そうでなければホワイエを疏水側に張り出すといったことも考えられないだろうか。
- ・ また、中庭のガラスの部分には色々議論があるだろうが、石田副委員長が元に戻せる保存方法ともおっしゃっていたので、本体の躯体部分に大きな損傷がなく変更がなければ、石田副委員長が確か京都新聞の記事で書いておられたと思うが、保存の方法について「元に戻せる、復元できる保存改修」といったことも考えて、といわれていた。
- ・ そういう意味で、現況の躯体に対して大きな損傷を与えない形でガラスの箱を付けて、また50年後に外した方がいいということになれば良いということになると外せるという配慮もあれば良いのではないか。

香山壽夫建築研究所所長

- ・ 考え方とすれば大いにあり得ると思うし、申し上げられたように構造的に新しいものが既存部分に負担を掛けない方が良いので、自立できれば一番よい。
将来、さらに様々な条件が生じた際に取替えられるようにするのもいいと思うし、そういったことも大いに技術的に検討したいと考えている。
- ・ 先ほどおっしゃっていたことはイメージがつかみにくかったが、第二ホールのホワイエが狭いというのはそのとおりである。今現在ある階段についても手を加えることで実質的に広く感じられるようにもしたいと考えているが、まだ具体的な提案には至っていない。

岡崎委員長

- ・ 橋本委員いかがか。

橋本委員

- ・ 全体として基本計画に基づいた内容は、第一ホールの前後に庇を回した案となっている、という思いがある。
- ・ 全体の枠が決まっていると上に伸ばさざるを得ない。2,000席というホールについても気にはなるが、2,000席という規模によって大規模舞台芸術というものを想起するということがフライズが大きくなるということも、基本計画で決められていることであれば、必然的に、全体的に上にボリュームが大きくなる。
- ・ これは致し方ないことだと思いつつ、良く全体的にお考えになっているのが、「抜け」の部

分がなんとなく通路として抜かれているように感じるところがある。もっと全体的な「抜け」の広がり、資料で出された模型の見え方のせいかもしれないが、資料5の模型写真で、現状は1階の「抜け」がなんとなく光が横に広がってはいるが、下の改修後の写真では通路でしかないように見える。

- これは模型の造り方がまずいのか、いわゆる広がりのある通路でなくて、単なる通路が軸として通っているのか、この辺りはなんとなく町家の「通り抜け」のようなイメージがあるので、もう少し広がりが欲しい。
- 厳しい言い方をすると、これは「抜け」ではなく「通り」だと空間的に思ってしまう。
- 一番気になるのは、前川建築の意匠的な継承について、素材であると前にもお話ししたが、前川はガラスの希釈さ、怖さ、危うさといったものに危惧を感じており、ガラスを前川の建物にくっつけるのはいかかなものかという思いがちょっと腹の中にはある。
- ただ、例えば、国際こども図書館の改修の際に安藤忠雄氏が設計されたように、古い建物を中に残しながらガラスで覆い、その継承を空間としてつなげていくという手法はあり得ると思っている。
- そこが前川の建物を改修するときに悩ましいところで、前川の素材感の扱い方、PCはPCらしく、タイルはタイルとして使う、決してまがい物で、「タイル風」であってはならない。素材感で構成される建築空間の中に、ガラスの箱がどういう風にくっつくのか。
- あと一つ気になるのは、フライズ及び客席の屋根のアール面の捉え方、いわゆるヴォールトではないが、この辺りの造形感覚が前川にはないものである。
- この辺りは前川のデザインを踏襲しつつと言いながらも、やはり香山デザインでそれを補っていくということを上手くやっていただきたい。

当然、建築家としての姿勢が違うわけで、香山先生が前川と同じ設計思想で同じ素材感の扱い方で設計するということはおかしな話なので、基本的には香山先生がおやりになるデザインで、しかしながら接ぎ木するような形のデザイン感覚ではなく、うまく収めていただきたい。

- これは無責任に、気楽に香山先生にすごく難しいことを申し上げていることは自覚しているが、このことが全体として、前川建築が継承されつつ100年たつて、「ここには香山のデザインがあるが、前川とうまくやっているな」といったふうに、評価として生き続けるものである。
- 今の関心事は、計画、プランニング、方式はすごく上手にまとめられており、先ほど言った表現の問題、高さの問題、これは自分自身短い経験の中での色々な思いもあるので、これから見せていただき、忌憚のない意見を発言させていただくが、香山デザインを否定するものではない。

岡崎委員長

- 前川デザインに対する香山デザインの対峙というか、調和というか、それについて香山先生は今どのようにお考えか。

香山壽夫建築研究所所長

- 一番肝心なところであり、同じ建築を習ってきた者として、一言で言わせていただくと、前

川デザインには最高の敬意を払って今後もデザインを進めていきたい。しかし、それをまねすることは前川先生に対する侮辱になると思うので、そういったことは一切しないつもりでいる。

- 付け加えるものは別の人が付け加えた、あくまで敬意を払った上で付け加えたデザインであると思っている。
- これと同じことではないかもしれないが、以前にゴシック風の建物に新しい建物を付けないといけないことがあった。

その時、歴史の先生からは当然ゴシック風のものを付けるよう言われたが、それでは漫画になると申し上げ、対比的なものを付けた結果、それなりの答えになったと考えている。

- あくまで最高の尊敬を払いつつ、現代のデザインを行い、50年後に建ったものとしてははっきりとした対比を際立たせながら、最高のものにすることが責任と考えている。

決して形を安易に真似するということは前川先生に申し訳ないことであり、天国で怒られてしまう。

岡崎委員長

- 今の考え方について、他の委員の皆様、中川委員はいかがか。

中川委員

- まったくその通りで、そのとおりにしていただきたい。本委員会のタイトルが歴史的価値の継承ということだが、歴史的価値を継承するときはどうしたら継承できるかという、新しい部分のデザインを既存部分と同じデザインでつくと継承できるかというそうではないと思う。基本的にはやはり違うデザインを感じさせないといけないものだと思う。
- ただ、ポイントはそれによって元の建物の価値を減じるようなことがあってはいけない、その一点に尽きると思う。
- ガラスの箱にしても、大変難しいと思うが、それによって中庭の空間の今の魅力がきっちりと維持される、それに新しいデザインも理解できるというものができれば理想だと思う。
歴史家は同じものを作れというケースが多いかも知れないが、私はそうは思わない。
特に、これはモダンデザインの場合はそうならざるを得ないと思う。
今の香山先生のお話はまさにその通りだと思うし、それを目指していただきたいと思う。

岡崎委員長

- 今まで外観の話が多かったが、内部、室内の問題も大きいのではないと思う。
例えば、打ち放しコンクリートについても今はパネルで打ってしまい、目地によってデザインするようなことをやるが、私たちがやってきたこととは全然違う。他にもいくつかあるが、内部についての皆さんの御意見はいかがか。

衛藤委員

- 委員長がおっしゃった内部のことではなく空間構成に関わることだが、前回の委員会で、ここで大事なの中庭を含めた全体の抜けと水平庇との意見があったが、そのとおりだと私も思うし、香山先生のこの案では、それが保たれている。

- ・ 京都会館の観客の動線及び空間認識として、2階と1階のつながりが悪いと思っている。
例えば、今回の案では、第一ホールのホワイエが狭いことから共通ロビーというアイデアが出てきた、共通ロビーは第二ホールにもつながっている。
この上下階のつながりについて、階段に手を入れても、上下階が空間的につながっていくような「上下の抜け」があってもよいと思う。

岡崎委員長

- ・ 今、内部のことを言った背景には、先ほど橋本委員がおっしゃった前川先生の素材感という話があった。
- ・ 今回、どの程度内部の仕上げが更新されるのかについては分かっていないが、例えば、素材感を生かして、香山先生はある程度の素材感というものをお持ちだろうが、場合によっては手に入らない素材もあるかもしれない。
- ・ その点について、内部はどの程度改修が進むのだろうか、ほぼ全般が変わってしまうのだろうか、京都市としてどう考えているか。

事務局（福島都市計画局公共建築部企画設計課建築担当課長）

- ・ 今の時点では、すべてのものをどういう形で整理するかは検討段階であるが、内装制限など現行法に合わせる部分があるので、木を使っている部分などは法的に改修せざるを得ないと考えている。
- ・ ただ、それ以外の素材のところでは元のを活かせるところは、それを十分活かした形で整理したいというのが基本設計の考え方である。
後はコストの問題と折り合いをつけていかないといけないと考えている。
- ・ 今回、第一ホールをしっかりと、今のニーズに合ったものに作り変えないといけないので、そこは基本設計の中で盛り込んでいきたい。

岡崎委員長

- ・ 建築的な話になっているが、伊藤委員はこの案についてどのようにお感じか。

伊藤委員

- ・ 今日、委員会の開始よりも大分早く来て京都会館の周りを見て回ったが、雨が降っていて良かったと思った。というのは、ピロティ部分に第二ホールのお客さんが並んでおられた。
今日のような天気の日には並ぶ場所がない。第一ホールに行くと、こちらは17時からの入館、第二ホールは13時からの入館であるらしい。
- ・ これが、もし同じ入館時間であれば、待つところがなくなり、ここでのお客さんはどう対処すればいいのかと考える。
私は、中庭は晴れの日のみ使える場所で、雨の日はどうされるのかと、正直、施設全体を考えた場合、待つ場所が少ないなと思った。あらためて今日は雨の日の状態を見ることができて良かったと思う。
- ・ もし、両ホールの入館が同じ時間となると待つことができないと思ったため、どういう形状

であれ、この「待つ空間」が欲しいと思ったので、その話題が出たのはありがたかった。

あと、自分は建築ではなく、中を使う立場になるので、強く言えるものではないが、西側の大庇は必要なのかと思う。

- ・ トータルデザインという考え方は大事だとは思いますが、西側には疏水があり、どこから西の庇が見えるのかと思う。

その庇の分だけ第一ホールの舞台が食い込まれているのは、建築的に考えがあつてのことであれば聞かせていただければと思う。

橋本委員

- ・ 庇はとても大事な話で、建物の構成として大庇と伽藍という発想の中で、上に飛び出している部分と下に収まる部分は建築構成として全体のコンセプトとなっている。

意匠的な面で無駄だといわれても譲れない思いがある。

- ・ 内観としての話については、今回、おそらく第一ホール、第二ホールとも内装制限によりやり直しになるということで、音響的にも全面的に更新することになると思う。
- ・ 一方で、京都会館ではそうせざるを得ないかもしれないが、私自身の経験の中では神奈川県立音楽堂も内装が木であり、法規的にはおかしいがホールの響きを変えるわけにはいかないという至上命令が音楽の愛好家からあった。

また、埼玉県浦和市にある埼玉会館でも木を使用しており、これも木を変えると響きが変わってしまうので絶対に変えないでほしいとなった。

- ・ 両方ともリフレッシュして洗いを掛けて、残響時間を測定したりして、木の緩みや、木に音がなじんでいるという精神的な側面もあるが、音の響きを変えないということが音楽ホールにとってとても大事であるということが音楽家の方たちからも意見が出て、そういう巡り合わせの中で二つのホールは内壁を変えない、いわゆる響きを変えないという発想で取り組んだ。
- ・ 今後、設計の中で音響の問題など色々な話が出る中で、外部のたたずまいとホワイエ等に見られる粗い床と打ち放しのプレキャストの階段といった、低層階、1階ホワイエにみる前川イズム的な空間の流れというものが、どこまで今後残っていくのか。
- ・ 建物に透明感があり、外から内部を感覚できるだけに、外部を歩いているときに建物の風景と一緒に内部を意識できる。そこにまったく違う質が出てくると、やはり違うのではないかとと思うので、その辺りについても是非、ホワイエや外部から目視でき、ガラス越しに視認できる空間は外部空間と内部空間が一体となった質を持っているという構成が望ましいと考えている。

岡崎委員長

- ・ 伊藤委員にお聞きしたいが、今回の資料の平面図で、舞台裏の搬入とかそういうシミュレーションをするとどういったイメージになるか。

伊藤委員

- ・ 1階部分しか見ておらず、もう少し地下部分とか上階も見ればよく分かると思うが、まず、搬入口部分はかなり整理された考えをお持ちだと思う。平たく言うと、良く劇場を理解されて

いると感じる。

- ・ 最近の資材の搬入というのは、11tトラックで、ガルウイングが開くというケースが多いので、我々の理想形としては、11tトラックの荷台高さとはほぼ同じ高さのプラットホームを広めにもっているということ。これが一番事故が起こりにくく、仕事がしやすい状況であり、このことを良く御理解されていると思う。
- ・ それともう一つは、この搬入口（第一ホール下手側搬入口の南にある搬入口）が、（第一、第二両ホールの）真ん中に、共有のようなイメージであるので、通常ではホールの境目部分で終わっている、若しくは下手側のみを設定されると思うが、ホール境界部分のプラットホームが広がっているので、第一ホールで大型のトラックを2台付けて、両方から搬入できると考えられているので、かなり劇場設計に手馴れておられると思う。
動線としてかなりクリアになっていると思う。
- ・ 同じように第二ホールについても、プラットホームを持っているので、例えば、第一ホールと第二ホールの搬入搬出がバッティングしているという時でも、下手側搬入口部分で切れている（第一ホールの搬入スペースは第一ホール下手側搬入口まで）というように考えれば、別にいいのではないかと思う。
- ・ また、それ以上に第一ホールの上手側にもサブの搬入口があるので、音響などもかなり機材が重くなっており、パワーゲートを持ってくれば搬入できるので、大道具とすみ分けもできるし、かなり整理された、使い勝手がいいものと思う。

岡崎委員長

- ・ 以前、京都会館の屋上を御案内いただいた。その時に、初めて素晴らしい景色がそこにあることが分かったが、今回、断面をみるとその辺りを意識されていると思うが、その点についてはいかがか。

事務局（福島都市計画局公共建築部企画設計課建築担当課長）

- ・ 屋上は景観上素晴らしい場所であると感じており、香山建築研究所からのプロポーザルでの提案では屋上緑化という提案をいただいている。ただし、今後、基本設計を進めていく中で、室外機などの設備を置く場所や、第一ホール、第二ホール及び会議棟の屋上部分の構造的な荷重検討をしないといけないので、それらを併せて検討した中で屋上緑化ができる部分があれば検討をしていきたいと思っている。

岡崎委員長

- ・ 他にはいかがか。

中川委員

- ・ 屋上緑化を含むのかどうかわからないが、第一ホールを建て替え、それ以外は保存することが基本となっているが、設計にかかわる方々は、「この機能が弱い」や「まだ不備がある」ということで「ここは変えよう」となるが、その辺りが気になる。
- ・ 例えば、MICE機能について、ガラスの箱で覆ったとしても、MICE機能としてはすご

く使いにくい。これでは国際会議をしようとしてもなかなかできないのではないかと思う。

- ・ 中庭も雨の日には当然使えないというような不備はあり、不備はあるが、極端な言い方をすると、使いにくいところも含めて、実は前川作品の価値だというようなことを言ってもいいのではないかとも思う。
- ・ 第一ホールは建て替える、そこは新しいもので万全なものを作ってもらい、しかしながら、他のところはなるべく今ある形、今ある空間の質をそのまま維持するような形を、建物価値の継承ということであれば、そういう方針で行ってほしい。
新しい機能、あれもこれも必要というように第二ホールや会議棟などにはあまり手を入れてほしくないという気もしている。

岡崎委員長

- ・ 今の段階で具体的な場所ではなく、基本的な姿勢として、そのように考えていただきたいという御意見と承る。

道家委員

- ・ 先ほどの雨の日のことで、京都府吹奏楽連盟の大会などで多くの生徒や父兄や先生が、晴れた日は中庭で練習しているが、雨の日は庇の下でぎっしりと集まって練習している。
そういう空間的な溜めがなくなるのではないかと資料を見て思う。
ただ、これは中庭の使い方、雨の日の対策を建築とは別途考えないとどうしようもない話かとも思う。建築的に雨の日の対策を何とかするのは難しいとも思う。

伊藤委員

- ・ 使う側に立った場合、建てられた後に、もし、必要な場所に屋根がなかったら屋根を造ってしまう。
- ・ 私は設計の方にきれいな屋根を考えてもらって造った方がトータルバランスとして良いのではないかと思う。新国立劇場でもやってもらえなかったのも、自分たちで造ってしまった。
- ・ 我々が造るようなものなので、決してデザイン性は良くないし、プロの方が考えた庇と屋根と待ち場所を造ってもらわないとなると、私がもし京都会館に来て、雨の日であれば、仮設で屋根テントのようなものを建ててしまうと思う。
そのほうがよっぽど美しくないし、そこは是非やっていただきたいなと思っていた。

道家委員

- ・ 申し上げたのは、建物に一体にして庇を出すのではなく、中庭のところをきちっと計画的にするというようなことで考えた方がよろしいのではないかという意見である

石田副委員長

- ・ 基本計画の改修案Bに沿って設計を進めていくということだが、改修案Bでは2階にエントランスをとり、ホワイエも2階になる。1階はバックステージでエントランスの矢印はあるが、通常ここから入っていくことはない。西側の壁面線も第一ホールは少し現状に近い位置に設定

されている。

ところが、今回出てきた資料では、むしろ1階がメインエントランスで、中を通過して共通ロビーから2階のホワイトエに上がる。西側はほぼ一杯一杯に壁面が来ている。

- ・ つまり、この場合だと基本計画というのは必ずしも決して重視されているわけではない。そうすると、京都市として前の数字のところを守られていれば形はそれほどこだわらないという風に受け取ってよいのかを確認したい。

事務局（本田都市計画局建築技術担当局長）

- ・ 高さの関係も同じであるが、基本計画というのものが、京都会館の期待される使い方、それは先ほども申し上げたが市民に使われ、一定の総合舞台芸術もできることがあり、そのところができないと困るが、ここを守った中で、デザインや動線等色々考えていくことがまさに基本設計であると考えている。

澤邊委員

- ・ 前川先生が設計され、文化財になる可能性がある、価値がある建物とのことだが、ここで香山先生が再整備の設計をされ、仮に100年後に文化遺産になるとすると、どういう形になっていくのだろうか。

是非とも高い評価をされて、文化財ということになってもらいたいし、そういうふうに造ってもらいたいと思うのだが、形の上では合作という形になるのだろうか。

橋本委員

- ・ 手が加わったということになるので、おそらく文化遺産にならないのではないかと思います。

澤邊委員

- ・ それはちょっとショックである。

橋本委員

- ・ その点は京都市が文化庁にきちっと確認していかないといけないと思う。

私が今知っているレベルでの話だと、なかなか難しいなと思う。特に戦後の建物については、文化庁でも認める、認めないの話がたくさんあるので、よりオリジナリティを求めてくる傾向がある中で、難しいかなという印象がある。ただ、あと100年も経ったら変わるかもしれないが。

澤邊委員

- ・ 是非とも100年後に認められるようなものを造っていただいて、前川、香山作品として仲良く認められるようになってほしいと願う。

岡崎委員長

- ・ 中川委員，文化財の件についてはいかがか。

中川委員

- ・ 文化財の価値基準は，例えば重要文化財の場合は幾つかの項目が挙がって，それに従って審議会が開かれて決めていくわけだが，それも実は時代によって微妙に変わってきている。
- ・ 現状の判断基準ではおそろくならないというのは事実だと思うが，今後どうなるかはたしかに分からなくて，文化財の考え方は，特に最近大きく変わりつつあるので，今後，再整備が完成した後，非常に評価が上がれば是非これを文化財にしようという動きになってくる。
それくらいのものを造っていただきたい。

石田副委員長

- ・ 日本橋の高島屋が重要文化財になっている。あれは高橋貞太郎の設計に，村野藤吾の設計により戦後に増築をされたものだが，両方合わせて重要文化財となっている。
高橋貞太郎が設計した部分も用途がデパートなので様々な改変が加えられているが，一番の見所部分がオリジナルのままよく残っていることが評価されて，トータルとして重文になっている。
- ・ こういった例もあるので，合作であること自体，あるいは後世の手が加わっていること自体は致命的なものではないだろうと思う。
特に近現代の建築については，今，中川委員がおっしゃったように，神社仏閣とは違った考え方がされてくるのではないか。もちろん年月を経ていかないといけないとは思いますが，その後にはなるべく良い評価が得られるであろうと思っている。

衛藤委員

- ・ 石田副委員長の御意見に付け加えると，重文民家というものもある。これはそこで生活することを認められた重文で，その点でも随分変わってきている。
むしろ，京都市が積極的にこれを売り出すことがポイントかなと思っている。
そのためにいいものを造っていただきたいと思う。
- ・ 先ほど石田副委員長から基本計画と今の案が違うという話もあったが，これに関係して高さについて，なぜ我々が守旧派のように重視するかというと，それはそれなりの理由があるからである。
それについては，今日，十分に話に出ているので説明する必要はないと思うが，やはり高さは少しでも下げられた方がよいという観点は持っている。もちろん澤邊委員から違う意見もあったが，そういう観点での検討もお願いしたい。

道家委員

- ・ 先ほど伊藤委員の話で西側の庇に関する話があったが，西側が京都会館の正面であるといえる。
二条通を川端通から歩いてくると，ここは本当に正面で，疏水越しに端まで全部姿が見えてくる。岡崎がこれから活性化という時に，神宮道から入ってくるといことがメインになるか

もしれないが、京都駅からタクシーなどで来るときには二条通側から来ることになるので、そこで最初に見えるのが西側である。

この景観は作業場にさせていただきたくない。荷物の上げ下ろしだけでそのままというのではなく、この部分の景観的、デザインの配慮を十分にお願したいと思う。

岡崎委員長

- ・ 他に御意見がなければこれで一応議論を終わらせていただく。

次回、香山先生に本日提出していただいたこの案及び高さその他に関して両方並行して考えていただくということで、事務局には準備をよろしくお願したい。

事務局（平家都市計画局公共建築部長）

- ・ ただいま委員長から次回、更に本日の資料の精査をして、より次に向けたものを出すように御指示があった。併せてフライズ等の資料についても今日の頂いた意見を踏まえて基本計画等の資料を出させていただきたいのでよろしくお願する。

事務局（内山文化市民局文化芸術都市推進室長）

- ・ 次回の会議予定については来年1月中旬開催を目途に調整をさせていただく。
日程については、各委員の皆様へ調整をさせていただいたうえで、改めて御連絡させていただく。
- ・ また、本日の会議録については、前回同様、案を作成後、各委員に御確認をいただいたうえで、ホームページ等で公開させていただく。

(3) 閉会

以 上